

【目次】

- 1. 神奈川県公立高校入試について P 2～11
- 2. 東京都立高校入試について P 12～18
- 3. 国私立高校入試について P 19～25

1. 神奈川県公立高校入試について

(1) 公立入試制度

■ 2013 年度以降の公立入試制度について

- ① 入試の機会は 1 回のみ。ただし、2018 年度より病欠者のために追検査日が加わる。
- ② 全志願者に共通の「学力検査(入試)」を実施する。1 教科の満点は 100 点、原則 5 教科 500 点満点。
- ③ 選考は基本的に「調査書(内申)」「学力検査(入試)」「面接」の 3 項目で行う。合計 1000 点満点。
さらに、「特色検査」を加える高校がある。学力向上進学重点校とそのエントリー校などは「自己表現検査」、専門コースのある高校などは「実技検査」を実施する。配点は各高校の任意で 100～500 点。
- ④ 2017 年度より、記述問題以外でマークシート方式を導入。また、合格発表時に受検者の得点と答案を開示。
- ⑤ 2019 年度より、横浜翠嵐・湘南・柏陽・厚木・希望ヶ丘・横須賀・平塚江南の 7 校が自己表現検査を共通問題と共通選択問題で実施。2020 年度から川和・多摩・相模原・大和・横浜平沼などを加えた 17 校で実施。
- ⑥ 2021 年度より、新型コロナウイルス感染症の追検査日を設定。合格発表が HP で行われる。

① 志願変更と学力検査(入試)

- ・志願変更は 1 回のみ可能。
- ・入試は 2 月中旬の「共通選抜」1 回のみ。
- ・病欠者のために約 1 週間後の追検査日を設定。

② 全志願者に「学力検査(入試)」を実施

- ・学力検査は英数国理社の 5 科目が原則。
- ・1 科目 100 点×5 科目=500 点満点。
- ・特色検査を実施する場合は、学力検査を 3 科目まで減じることが可能。

(例) 神奈川総合(舞台芸術科): 英数国と理社から 1 科選択、相模原弥栄(音楽・美術): 英数国 など。

公立入試カレンダー(2023 年度)

1/25(水)～2/1(水)	郵送または直接出願
2/6(月)～2/8(水)	志願変更
2/14(火)	学力検査(共通選抜)
2/15(水)～2/17(金)	面接・特色検査
2/22(水)	追検査日
2/28(火)	合格発表
3/9(木)	追検査日(新型コロナ)
3/15(水)	合格発表

③ 選考は基本的に「調査書」「学力検査」「面接」の 3 項目

- ・全志願者に面接を実施。調査書(内申)や学力検査(入試)では図ることのできない特性や長所及び高校で学ぶ意欲を見る。ただし、現中2の 2024 年度入試より面接は一部の高校や学科を除き廃止が検討されている。

■ 選考資料

・A値: 調査書(内申)

中 2 学年末の内申(45 点満点)+中 3 の 12 月の内申×2(90 点満点)=135 点満点。
ただし、高校ごとに 3 科目まで 2 倍以内の重点化が可能。

・B値: 学力検査(入試)

英数国理社の 1 科目 100 点×5=500 点満点。
ただし、高校ごとに 2 科目まで 2 倍以内の重点化が可能。

・C値: 面接

事前に面接シート(志望理由、中学での学習意欲、中学での学習外活動への意欲、自分のよいところ)を記入して提出。
面接では上記に加えて、高校での学習意欲、高校での学習外活動への意欲、高校の特色理解、将来の展望、などから各高校が重視する観点を質問して 100 点満点に得点化。

■ 選考方法

・第1次選考(定員の90%)

A値:調査書(内申)、B値:学力検査(入試)、C値:面接の各項目を100点満点に換算。
各項目の合計が10割になるように、各項目に2～6割を配分。その比率は各高校の任意。
上記の比率をかけて1000点満点にしたものをS値として、S値の高い順に合格者を決定。
特色検査がある場合は、100点満点換算後に5割以下の比率をかけてS値に加算。

・第2次選考(定員の10%)

他府県からの転居者(資料の一部が整わない者)に配慮し、A値:調査書(内申)を使わない。
B値:学力検査(入試)、C値:面接のみで1000点満点に換算して合格者を決定。
各項目の比率は各高校の任意で、第1次選考の合格者以外から選考。
特色検査を実施する高校は、第1次選考の可算方法に準じる。
なお、横浜国際の国際バカロレアコースは第2次選考を行わない。

■ 公立高校の第一次選考基準例(2023年度)

(注)A:B:Cは、A調査書(内申)・B学力検査(入試)・C面接の比率。4:4:2以外か重点化のある高校を抜粋。

高校名	A:B:C	内申重点化	学力検査	学力検査重点化
横浜翠嵐	2:6:2	—	英数国理社	—
湘南	3:5:2	—	英数国理社	—
柏陽	3:5:2	—	英数国理社	—
横浜緑ヶ丘	3:5:2	—	英数国理社	—
横浜サイエンスフロンティア	3:5:2	英数理2倍	英数国理社	数理2倍
多摩	3:5:2	—	英数国理社	—
希望ヶ丘	3:5:2	—	英数国理社	—
大和	3:5:2	—	英数国理社	—
神奈川総合(個性)	3:5:2	—	英数国理社	高得点1科2倍
神奈川総合(国際文化)	3:5:2	英2倍	英数国理社	英2倍
神奈川総合(舞台芸術)	3:5:2	—	英数国+1科	—
横浜国際	4:4:2	英2倍	英数国理社	英2倍
市ヶ尾	4:4:2	音美体技家の高得点1科2倍	英数国理社	—
海老名	3:5:2	—	英数国理社	—
市立東	3:5:2	—	英数国理社	英1.5倍
横浜商業(国際)	4:4:2	英2倍	英数国理社	英2倍
市立南	3:5:2	—	英数国理社	英1.5倍
相模原弥栄(普通)	4:4:2	英国数2倍	英数国理社	—
相模原弥栄(美術)	4:4:2	美2倍	英数国	—
相模原弥栄(音楽)	4:4:2	音2倍	英数国理	—
大和西	3:5:2	英2倍	英数国理社	—
住吉	3:5:2	—	英数国理社	—
橋本	4:4:2	英2倍	英数国理社	—
荏田	5:3:2	—	英数国理社	—
二俣川看護福祉(看護・福祉)	5:3:2	—	英数国理社	—
白山(普通)	5:3:2	—	英数国理社	—
横浜旭陵	5:3:2	—	英数国理社	—

④ 各選考資料の配点割合についてのまとめ

■ 選考資料ごとのS値換算

・A値:調査書(内申)

内申 135 点満点(重点化のない場合)を、200～600 点満点に換算する。

満点	200	300	400	500	600
内申 1 点＝	S 値 1.48	S 値 2.22	S 値 2.96	S 値 3.70	S 値 4.44

・B値:学力検査(入試)

入試 500 点満点(重点化のない場合)を、200～600 点満点に換算する。

満点	200	300	400	500	600
入試 1 点＝	S 値 0.4	S 値 0.6	S 値 0.8	S 値 1.0	S 値 1.2

・C値:面接

4～8 ある評価項目を 3 段階で評価し、200～600 点満点に換算する。

満点	200	300	400	500	600
4 項目評価の 1 点＝	S 値 16.7	S 値 25.0	S 値 33.3	S 値 41.7	S 値 50.0
8 項目評価の 1 点＝	S 値 8.3	S 値 12.5	S 値 16.7	S 値 20.8	S 値 25.0

⑤ 「特色検査」について

- ・特色検査は必要な高校のみが実施する。実技検査と自己表現検査の 2 種類がある。
- ・実技検査は主に専門コースで実施され、適性が判断される。
- ・自己表現検査は主にトップ校で実施される。情報活用力・論理性・思考力・表現力などが判断される。各高校で独自に問題を作成していたが、2019 年度から横浜翠嵐・湘南・柏陽・厚木・希望ヶ丘・横須賀・平塚江南の 7 校は共通問題と共通選択問題を用いた。2019 年度に独自の自己表現検査を実施した高校には、横浜国際の口頭試問、神奈川総合(国際)の集団討論、横浜緑ヶ丘があった。
- ・2020 年度より全ての学力向上進学重点校とエントリー校で自己表現検査を実施。新たに川和・多摩・大和・相模原・横浜平沼・光陵・鎌倉・茅ヶ崎北陵・小田原の 9 校が加わった。2021 年度より横浜緑ヶ丘、2022 年度より横浜国際が共通問題を採用して、横浜 SF と横浜国際の IB のみ独自問題を実施した。

■ 選考資料・選考方法

A 値:調査書(内申)、B 値:学力検査(入試)、C 値:面接の他に、特色検査の結果として D 値を加算した S 値の高い順に合格者を決定する。D 値は 100～500 点満点とし、各高校で設定する。特色検査を実施する高校は、学力検査(入試)を 3～5 科目から設定する。

■ 自己表現検査の出題内容(2022 年度共通問題) 選択問題は各高校が事前に 2 題選定

共通問題 1: 百分率計算やグラフ読取りを含む英語長文読解(5 問)

共通問題 2: 障子に関する随筆読解と数学や理科の論理性を必要とする問題(5 問)

選択問題 3: グラフ読取り、四字熟語推測、英熟語推測、理科・数学的思考力(9 問)

選択問題 4: 文章の論理的読解、図形・パズルの問題(8 問)

選択問題 5: 独立した図形及びパズルの問題(9 問)

選択問題 6: クランク運動、バスケットボールを題材にした数学的思考力(5 問)

選択問題 7: グラフの読取りと論理的思考力、図形・文章の数学的思考力(5 問+記述 1 問)

■ 自己表現検査(共通問題 18 校)の出題一覧(2022 年度)

	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7
横浜翠嵐	●	●				●	●
湘南	●	●	●		●		
柏陽	●	●		●		●	
川和	●	●	●		●		
厚木	●	●				●	●
横浜緑ヶ丘	●	●		●		●	
多摩	●	●		●		●	
希望ヶ丘	●	●	●			●	
大和	●	●	●	●			
相模原	●	●	●	●			
光陵	●	●		●			●
横須賀	●	●		●		●	
小田原	●	●	●		●		
平塚江南	●	●		●	●		
鎌倉	●	●		●			●
横浜平沼	●	●	●		●		
茅ヶ崎北陵	●	●	●		●		
横浜国際	●	●	●		●		

■ 実技検査の例(2022 年度)

高校名	特色検査	評価の観点	検査の概要
神奈川総合 舞台芸術科 (21 年度開設)	身体表現 演技表現	・身体を動かす能力 ・表現の創意工夫 ・言葉で伝える能力	・当日指定した順序で「歩く」「走る」「ジャンプする」「座って立ち上がる」などの動作を連続して行う。 ・出願時に与えられた課題文(戯曲または会話文)を声に出して読む。
弥栄 美術科	デッサン	・表現の技術 ・表現の工夫	- 与えられた題材 3 つを鉛筆デッサン(素描)する。 ・鉛筆(2H・H・F・HB・B・2B・3B・4Bの範囲で使用可)を持参する。 ・B4 画用紙は学校で用意する。 ・検査時間は 60 分とする。
弥栄 スポーツ科学科	運動	・基本的技能 ・応用技能	実技検査(選択する実技種目) バレーボール、バスケットボール、バドミントン、サッカー、陸上競技、剣道、ベースボール型実技、総合運動技能の 8 種目から 1 種目を選択し、技能検査。 ※ただし、陸上競技は、「短距離走、中・長距離走、ハードル走、跳躍、投てき」から 1 種目を選択する。

(2)入試制度の傾向と対策

年度や科目によって難易度の変化はあるものの、記述問題が大幅に減少した以外は出題形式も定まってきた。どの科目にも共通しているのは、他府県の公立入試と比較して最多の文字数と資料を素早く読み取って理解した上で、知識を組み合わせることで答えることである。このことも含め、以下に入試制度の傾向と対策を述べる。

① 学力検査(入試)について

■ 内申と入試の比率は4:4が最多

各高校が内申と入試の比率を変更する場合、通常 7 月上旬までに発表される。現在、内申 2:入試 6 の超入試重視型は横浜翠嵐 1 校のみである。次に、内申 3:入試 5 の入試重視型は、トップ校や準トップ校に多く見られる。例えば、トップ校の湘南・柏陽・横浜緑ヶ丘・横浜サイエンスフロンティア・希望ヶ丘・大和・神奈川総合・多摩などで 2021 年度は小田原も 4:4 から 3:5 に変更した。準トップ校では市立南・海老名・市立東などがある。そして、比率で最も多いのは内申 4:入試 4 である。いわゆるバランス重視というもので、トップ校の川和・横浜国際・相模原や準トップ校の横浜平沼・市ケ尾などが挙げられる。

最後に、内申 5:入試 3 の内申重視型は専門コースや中堅以下の高校によく見られる。例えば、荏田・永谷・横浜旭陵などが該当する。2021 年度に旭が内申重視の 5:3 から 4:4 に変更した。

■ 内申重視の高校は倍率も高く、入試での逆転は厳しい

内申と入試の比率が 4:4 の川和・市ケ尾・港北・元石川などでは、内申の 6 点の差を入試得点で逆転するのに 23 点多くとる必要がある。特にトップ校である川和の受検者は通常難易度の合格平均点が 430 点前後になるため、さらに 20 点以上多くとろうとすると、正解率 9 割弱の 450 点以上となり、逆転は厳しくなる。トップ校の合格にはまず内申を上げることが重要になってくる。

そのため、トップ校の中でも内申 3:入試 5 の比率を採用する多摩・大和などを選択することも一つの手である。また、数学パズルなどの論理性に自信があれば、希望ヶ丘の特色検査にも対処しやすいので、検討するとよい。

なお、志願変更後の倍率より最終倍率が下がる高校は、一部のトップ校のみである。国私立難関校に一般受験で合格したために、公立入試を辞退することが主な理由である。2022 年度の辞退者が多かった高校は、横浜翠嵐の 33 名だった。逆に、辞退者が少ないトップ校は、川和の 10 名、横浜緑ヶ丘の 7 名、大和の 4 名、相模原の 1 名などである。横浜翠嵐を含めて辞退者が近年減少傾向にあるのは、大学合格実績がさらに伸びたために国私立難関校よりも魅力を感じたからと思われる。

■ 2022 年度の出題傾向と今後の対策

学力検査の合格者平均点は年度により異なる。特に 2016 年度から 18 年度にかけては、平均点の上下動が激しい。その理由として挙げられるのは、マークシートの導入と記述問題の大幅な削減である。

■ 内申 1 点に相当する入試得点(5科の場合)

- ・A値:B値=2:6 の場合 … 内申 1 点=入試 1.23 点
- ・A値:B値=3:5 の場合 … 内申 1 点=入試 2.22 点
- ・A値:B値=4:4 の場合 … 内申 1 点=入試 3.70 点
- ・A値:B値=5:3 の場合 … 内申 1 点=入試 6.17 点

■ 入試で逆転するには…

Xくん

(A値 108/135 [36/45]、B値 380/500)

Yくん

(A値 102/135 [34/45])



- ・A値:B値=2:6 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **8 点多く(388/500)**とれば逆転！
- ・A値:B値=3:5 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **14 点多く(394/500)**とれば逆転！
- ・A値:B値=4:4 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **23 点多く(404/500)**とれば逆転！
- ・A値:B値=5:3 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **38 点多く(418/500)**とれば逆転！

◆2017 年度の特徴

- ① マークシート方式の導入
- ② 記述問題の分量が減少
⇒ 32 点の平均点上昇

◆2018 年度の特徴

- ① 記述問題の更なる減少で
1 問当たりの配点が高くなる
- ② 社会の難易度が大幅に上昇
⇒ 25 点の平均点下降

	英語	数学	国語	理科	社会	平均点
2022年度	52.1	52.9	61.3	58.9	62.4	287.6
2021年度	54.6	58.2	65.7	50.1	72.6	301.2
2020年度	49.4	55.7	69.1	55.9	58.2	288.3
2019年度	49.8	50.3	59.1	61.3	42.5	263.0
2018年度	56.1	56.0	65.6	45.3	41.8	264.8
2017年度	51.9	63.5	73.1	46.9	54.5	289.9
2016年度	43.0	51.7	64.7	46.5	52.0	257.9
2015年度	51.8	52.6	64.4	37.4	50.2	256.4
2014年度	59.6	51.7	60.8	38.6	49.5	260.2
2013年度	54.8	65.5	67.8	66.4	51.1	305.6

このような状況が起きた背景には、2016 年度に起きた採点ミスの問題がある。記述問題は、字数が多くなればなるほど一つの模範解答に集約することが難しい。また、採点する際に基準を設けても、どうしても採点者によって、ズレが生じる。採点ミスを防ぐために合計 5 回ものチェックを行い、それでも疑問点が出るたびに会議を開いて決定したと、ある高校の校長は話してくれた。そのため、記述問題の分量を減らして採点しやすくすることを念頭に問題が作成されたと推察する。2022 年度は理科以外の合格者平均点が落ちて前年より 13.6 点も下がったために、ほぼ 2020 年度と同じ点数になった。以下に 2022 年度の出題傾向と対策をまとめる。

◆英語…難易度は、ほぼ変化なし。

- ① 問2の会話文補充が記述から選択式に変わり、記述は問5のイラスト英作文のみとなった。
- ② 長文問題の問6が難化するも問8の英文量は 10 行減で易化。しかし、配点が 1 問 5 点と高い。
⇒ 文法問題の難易度に差があるが素早く解き、配点の高い長文に時間をかけられる総合力が必要。

◆数学…難化。大問数は 6 題で変わらないが、関数と図形で難易度の高い問題が 18 点分出題された。

- ① 解答が選択式から、1 桁ずつマークシートを塗りつぶす形式に変化。問 3 の(ウ)(エ)は二つとも図形問題。
- ② 正解率が低いものは、問3(エ)0.7%、問4(ウ)6.9%、問 6(ウ)2.7%と難易度の差がさらに広がった。
⇒ 問1と問2で満点を狙い、問3以降は制限時間内で解くべき問題を取捨選択する訓練が必要。

◆国語…難化。大問 5 の記述以外全て選択式になったが、合格者平均点は過去 3 番目の低さになった。

- ① 大問順が変化して、古文は問 2 から問 4 になった。短歌の配点が 4 点に上がり、四字熟語が出題された。
- ② 大問 5 の記述文字数は減ったが、必要な部分だけを拾い読みして要約できないものになった。
⇒ 古文の知識定着、読解スピードの向上と消去法の活用、大問5の記述力向上が必要。

◆理科…易化。合格者平均点が 5 教科中唯一上がる。

- ① 正解率が 35%を下回る出題は昨年から 2 つ減って 4 題。問 5(エ)の正解率も昨年の 4%から 16%と上昇。
- ② 記述問題がなくなって選択肢が易くなったが、長い問題を読んで整理・考察する力は依然として必要。
⇒ 問 1 から問4までの分野別問題で確実に得点を重ねる基礎知識を身に付ける。加えて、問 5 以降の単元をまたいだ知識を組み合わせる答えを出す問題は、秋以降の演習と復習が重要。

◆社会…昨年度より予想通り難化したが、例年に比べれば難易度は高くない。

- ① 設問数が 35 問から 32 問に減少して記述問題がなくなるかわりに、6 択・8 択の選択問題が増えた。
- ② 単純な暗記では解けない知識を組み合わせる解く問題への対処と素早く解くための消去法が必要になる。
⇒ 教科書を読んで、細かい部分まで覚え直す。忘れては覚えての繰り返しを年間で行う。トップ校を狙う生徒は、より難易度の高い過去問を使って対策していく。

② 得意科目から高校を選ぶ

■ 重点化を利用する

重点化は学校が求める生徒像を打ち出したものだが、受験生の得意科目と合致するのであれば、受験をより有利にすることができる。

例えば、神奈川総合(個性化)は「学力検査(入試)のうち、点数の高い1教科を2倍」という重点化を行う。仮に右の表のように、内申点と入試得点と同じであっても、得意科目があれば逆転が可能である。

このように、得意科目と受験校の重点化が合致した場合は、有利な受験ができる。学校の校風が自分に合うかどうか重要だが、ボーダーライン近くなれば得意科目を生かせる受験も検討すべきである。

■ 重点化の例

神奈川総合[A:B:C=3:5:2]学力検査の高得点1科2倍

・Xくん A:内申点 116/135 点、B:学力検査 375/500 点

C:面接 80/100 点

	英	数	国	理	社	計
入試得点	80	70	75	75	75	375/500
重点化	160	70	75	75	75	455/600

⇒S値:796.8P

・Yくん A:内申点 116/135 点、B:学力検査 375/500 点

C:面接 80/100 点

	英	数	国	理	社	計
入試得点	90	70	75	70	70	375/500
重点化	180	70	75	70	70	465/600

⇒S値:805.2P 逆転!

③ 面接で差をつける

■ 面接の全校実施は 2023 年度入試まで。24 年度(現中2)から一部の高校のみで実施予定

面接は現中3の2023年度入試まで実施される。現中2以降はクリエイティブコースや専門コースのある高校でのみ面接を実施する方向で検討が行われている。

■ 面接での質問事項

面接の比率(C値)は、工業・商業・総合高校などの一部では3割の比率が見られたが、全日制普通科では最小の2割を選択した。しかし、2割の比率であっても、内申や入試得点に比べて面接のウェイトは非常に大きいのである。

面接では、事前(出願時)に面接シートを提出する。記入欄は4項目あり、「志望動機・中学校での教科学習に対する意欲的な取り組み・中学校での教科外活動への意欲的な取り組み・自分の長所」のそれぞれに対して記入する。面接では、この面接シートをもとにした質問や、各高校が定めた評価の観点に關しての質問が行われる。

各高校が定めた評価の観点は次頁の表の通りであるが、面接シートの記入欄の上3項目である「志望動機・中学校での教科学習に対する意欲的な取り組み・中学校での教科外活動への意欲的な取り組み」は全ての高校で共通して評価される。この3項目以外で、「高校での教科学習に対する意欲的な取り組み・高校での教科以外への意欲的な取り組み・将来への展望・面接態度・その他の観点」から、高校ごとに重点をおく内容を選んで評価する。

◆面接シート

面接シート		申込 番号
志願者 氏名	中学校名	立 中学校
志願校 (県・市) 立	高等学校	科
		コース 専攻・部

⑥ 面接の質問内容の参考とするため、次のことについて記入してください。⑦、⑧については、数値のみも含めて記入してください。
⑦ このシートは面接の参考資料で、直接に面接資料にはしません。

1 なぜこの学校に入校したいのですか。

2 中学校での教科等の学習活動に対して、どのような意欲をもって取り組みましたか。

3 中学生のときに教科等以外の活動に対して、どのような意欲をもって取り組みましたか。
(学校外の取組みでも構いません。)

4 自分自身のよいところなどのよいところだと思えますか。

【記入上の注意】 ① 空欄は記入しないこと。 ② 枠内に自筆で記入すること。鉛筆書きも可。写真等は貼付けないこと。

■ 主な公立高校の面接評価項目(2023 年度)

高校名	志望理由	中学での		将来への展望	高校での		学校や学科の 特色理解	面接の態度	その他の観点
		学習意欲 教科への	教科以外の 学習意欲		学習意欲 教科への	教科以外の 学習意欲			
横浜翠嵐	●	●	●		●	●		●	
湘南	●	●	●	●		●			
川和	●	●	●						高校での教科学習と教科等以外の活動との両立に対して主体的に取り組む意欲
横浜緑ヶ丘	●	●	●	●	●	●		●	
神奈川総合 (個性化・国際文化)	●	●	●	●	●	●			
大和	●	●	●	●	●	●		●	
多摩	●	●	●	●	●	●		●	
横浜市立 横浜サイエンスフロンティア	●	●	●	●					科学に対する興味・関心
横浜国際	●	●	●	●	●				
横浜市立桜丘	●	●	●		●	●			
横浜平沼	●	●	●	●	●	●			
市ヶ尾	●	●	●	●	●	●			
生田	●	●	●	●	●	●		●	
横浜市立戸塚(一般・音楽)	●	●	●		●	●			
新城	●	●	●	●				●	長所・自己アピール
相模原弥栄(全科)	●	●	●	●	●	●	●	●	
横浜市立東	●	●	●		●	●		●	
鶴見	●	●	●	●	●	●		●	
大和西	●	●	●	●	●	●		●	本校の国際理解教育の取り組みに対する意欲
港北	●	●	●	●	●	●	●	●	
横浜市立みなと総合	●	●	●		●	●			
横浜市立横浜商業(全科)	●	●	●		●	●	●	●	
元石川	●	●	●	●	●	●		●	自己の長所・特性の理解
岸根	●	●	●	●	●	●		●	
荏田	●	●	●		●	●	●	●	部活動の高い目標と学習を両立させる強い意欲
麻生	●	●	●	●	●	●		●	
住吉	●	●	●		●	●		●	
霧が丘	●	●	●		●	●	●	●	
百合丘	●	●	●	●	●	●		●	
城郷	●	●	●		●			●	
生田東	●	●	●	●	●	●		●	
新羽	●	●	●			●	●	●	

■ 面接での評価は意外と大きい

神奈川県教育委員会からの発表では、面接は項目ごとに3段階評価を行うことになっている。評価項目は各高校によって異なるが、多いところで相模原弥栄や港北などの8項目、少ないところで川和の4項目となっている。これら各項目で3段階評価を行ったとすると、8項目の高校で24点満点、4項目の高校で12点満点となる。

ところが、この24点や12点を200点満点に換算すると、8項目の高校では1段階あたりの評価点がS値の約8.3点、4項目の高校では約16.7点となる。

例えば、右の表のように、川和ではS値の割合が4:4:2であり、面接の評価項目が4つなので、面接の1点が内申の5.64点、入試の13.4点分にあたることになる。このように、面接での1点が占める割合は非常に大きいので、面接を軽視してはならない。

■各選考資料の配点の割合の例(川和[A:B:C=4:4:2])

・A値:調査書(内申)

135点満点を400点満点に換算するため、**内申1点=S値2.96点**

・B値:学力検査(入試)

500点満点を400点満点に換算するため、**入試1点=S値1.25点**

・C値:面接

12点満点を200点満点に換算するため、**面接1点=S値16.7点**

⇒したがって、「**面接1点=内申5.64点=入試13.4点**」

■ 面接点に差のつく高校とつきにくい高校

2022年度の入試から、面接点に差のつく高校とつきにくい高校がある程度予測できる。差がつきにくい高校は、面接点が全く同じか極端に良い点と悪い点を除き5点差以内に集中している。面接点によって逆転が可能な高校の場合、さらに入念な準備が必要である。

高校ランク	面接点で差のつく高校	面接点で差のつきにくい高校
トップ校	川和・横浜緑ヶ丘・相模原・横浜国際	横浜翠嵐・湘南・柏陽・横浜サイエンスフロンティア・多摩・大和・神奈川総合・希望ヶ丘・新城
準トップ校	市立戸塚(一般)・相模原弥栄(普)・生田	市ヶ尾・市立桜丘・海老名・横浜平沼・座間・市立東
中堅校 その他	橘(国)・元石川・湘南台・鶴見・荏田・橋本・麻生・霧が丘・百合丘・旭・川崎北・新栄・生田東・保土ヶ谷・横浜旭陵	横浜商業(国・商・ス)・港北・市立みなと総合・住吉・瀬谷・大和西・岸根・城郷・上鶴間・新羽

■ 高校説明会でメモを取る

共通で評価される面接シートでは、他の受験生と差がつく内容を狙いたい。そのために、高校説明会や見学に参加し、説明会や配布された資料から、自分が共感した他の高校と異なる長所(カリキュラムや高校独自の取り組み)をメモすると良い。そのメモを元に志望理由を書くことで、なぜその高校を選んだのかが明確になる。

次に、中学校での教科への意欲的な取り組みは、自分なりの勉強への工夫などを盛り込むのが良い。また、教科以外の意欲的な取り組みは、部活動や行事の他に学校以外の習い事などでもよい。自分がその体験からどのようなことを学んだのかを書くことが高評価につながる。

実際の面接では、高校ごとに評価項目が異なる。事前に、志望校の評価項目を確認して、その内容に沿った答え方を練習すると良い。また、塾での事前添削を元に内容を練るようにして欲しい。特に、その他の項目には注意が必要である。例えば、川和の「教科学習と他の活動の両立に主体的に取り組む意欲」や希望ヶ丘の「部活動・生徒会活動等に取り組む強い意欲と高い志」、元石川の「自己長所と特性の理解」などは、必ず面接で聞かれる内容である。面接シートとも整合性がある内容を準備することが重要である。

④ 特色検査

特色検査は、旧入試制度の前期選抜や実技検査を踏襲した内容となっている。2022 年度の自己表現検査では、横浜サイエンスフロンティア・横浜国際の IB のみ独自問題を実施し、他は共通問題とマークシート方式が採用されている。問題の難易度は 2021 年度より易化した。が、時間内に全て解くことは難しい。よって、全校共通の大問 1 と大問 2 でなるべく多く得点することが重要である。また、各高校が事前に
大問 2 題を指定する選択問題では、解けそうな問題のみを選んで時間をかける必要がある。

この高校ごとの選択問題では、大問 3(グラフ読み取り、語句の推測や数学・理科学的論理性を見る問題)と大問 4(文章の論理的読解や図形・パズル的な問題)を選ぶ高校が各 9 校と一番多かった。副教科も含めた幅広い知識を蓄えたうえで、知識を組み合わせる答えを出していく練習を重ねる必要がある。

相模原弥栄のスポーツ科学科、美術科、音楽科の実技検査も昨年度までの内容と同様である。横浜国際の IB コースでは、100 点中 50 点分の配点で 200 語以内の英語記述問題が出題される。英検準 2 級以上で出題される記述問題などで練習を行うとよいだろう。

■ 特色検査の例(2022 年度選択問題 3 より)

文脈から日本語と英単語の語句を推測する問題

問 3 札幌市にある中学校の先生(A 先生、B 先生)と生徒(a さん、b さん)の会話文を読んで、あとの(1)～(8)の問いに答えなさい。

A 先生：数年前、私が健康診断を受けたところ、医師から、食生活の見直しと運動不足の解消に努めることにより、体重を減らすよう勧められました。私はそれから毎日、(a) 定量のバランスを考えた食事を心がけ、通勤も一つ駅の駅で降りて、歩くようにしました。50 g 単位で測ることができるデジタル体重計も購入し、今までは、00.1 kg、00.2 kg と記録していたものが、00.05 kg、00.20 kg とより正確に記録できるようになりました。旅行の際にも持ち歩き、体重の増減を毎日記録しながら目標達成に取り組みだこともあって、今年の健康診断の結果は「良好」になりました。

a さん：やはり「継続は力」なのですね。私も目標を成しとげるために、うまくいかないことがあっても、諦めずにコツコツと努力を積んでいきたいと改めて思いました。

A 先生：そのような考え方は、たとえば、西字熟語に (a) 「O 上 Δ 前」 や 「O 本 Δ 前」 とあるように、昔から多くの人が大切にしてきたものです。

a さん：そんな西字熟語があったのですね。英語にも同じような表現があるのでしょうか。

A 先生：ありますよ。たとえば、「(a) () fills the purse.」という表現があります。「fill」は「満たす」、「purse」は「財布」の意味です。

a さん：なるほど。外国にも同じような考え方があるのですね。

(1) ——— 線(b)の二つの四字熟語の O と Δ にあてはまる、a さんの最初の会話文中で使われている漢字一字があてはまる。O と Δ のそれぞれに最も適するものを、次の 1～8 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

1. 力 2. 標 3. 成 4. 諦 5. 努 6. 積 7. 改 8. 思

(9) ——— 線(c)の () にあてはまる語句として、最も適するものを、次の 1～4 の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1. Little and often 2. Much and sometimes
3. Small but interesting 4. Difficult but important

⑤ 得点開示について

2016 年度の入試において、理科の大問 3 の(ウ)で正答が 2 つある出題ミスがあり、受検者全員に 3 点が加算された。また、88 校 330 人で小問の合計得点などに誤りがあり、本来合格するはずであった 2 名が不合格となっていた。これを受けて、2015 年度の採点に関しても答案を廃棄した 3 つの高校以外で調査が行われた結果、71 校 188 人に採点ミスが見つかり、2 名が不合格とされていた。そのため、2017 年度の合格発表から受検者全員に各科目の得点と面接点が資料として配布された。

⑥ 併願校の選び方

旧入試制度では、日程的に前期選抜の合格者は私立の併願校受験を辞退していた。しかし、2013 年度以降は、公立高校が第一希望である生徒のほとんどは私立の併願校を受験することとなる。また、公立の受験回数も一度だけとなってしまうため、今まで以上にきちんとした併願校選びを行う必要がある。

私立高校の中には、大学の附属校など公立高校にはない魅力をもつところが数多くある。したがって、私立高校をただ公立の滑り止めとして受験するのではなく、公立高校と同ランクの私立高校を第 2 希望校とした受験プランも考えた方がよい。

注：公立入試は「学力検査」を実施するため、「受験」と表記し、国私立の入試に関しては「受験」と表記しました。

2. 東京都立高校入試について

(1) 推薦入試【入学定員の 20%程度】

推薦での募集定員は、普通科が入学定員の 20%、その他の学科やエンカレッジスクールは 40%が上限である。また、小論文・作文・実技検査のうち1つ以上の検査と面接※をすべての学校で実施し、そこに調査書の点数を加えた「総合成績」の上位の受検者から合格する。試験日は例年 1 月 26 日頃。推薦入試では志願変更は認められない。 ※2021 年度から新型コロナウイルス感染症に関する対応のため、すべての学校で集団討論を中止している。

推薦入試の応募倍率は、以前は 3 倍を超えるところがほとんどだったが、主に都心にあり人気がある高倍率の学校と低倍率の学校の二極化が目立つようになってきた。出願は志望すれば可能だが、そもそも募集定員が少なく、集団討論や小論文・作文の対策が必要な上、選抜資料の 50%が調査書点で決まってしまうので、一般入試でも余裕を持って合格できそうな調査書点を持っていないと、推薦入試での合格は厳しい。

■ 推薦入試の選考一覧および応募倍率(2022 年度)

高校名	募集定員 割合	調査書配点	個人面接※ 配点	小論文・作文・ 実技検査配点	満点	応募倍率 男子/女子
日比谷	20%	450 点 (50%)	200 点 (22%)	【小】250 点 (28%)	900 点	3.06/3.87
西	20%	360 点 (40%)	240 点 (27%)	【作】300 点 (33%)	900 点	3.09/4.57
国立	20%	450 点 (50%)	150 点 (17%)	【小】300 点 (33%)	900 点	3.34/4.13
戸山	20%	450 点 (50%)	150 点 (17%)	【小】300 点 (33%)	900 点	4.03/5.23
青山	10%	450 点 (47%)	100 点 (11%)	【小】400 点 (42%)	950 点	5.93/9.62
立川	20%	500 点 (50%)	100 点 (10%)	【小】400 点 (40%)	1000 点	2.61/4.12
八王子東	20%	500 点 (50%)	100 点 (10%)	【小】400 点 (40%)	1000 点	2.22/3.13
新宿(普通科単位制)	10%	450 点 (50%)	180 点 (20%)	【小】270 点 (30%)	900 点	6.53
国際(国際学科)	30%	500 点 (50%)	200 点 (20%)	【小】300 点 (30%)	1000 点	3.62
駒場(普通科)	20%	360 点 (50%)	180 点 (25%)	【作】180 点 (25%)	720 点	2.54/2.81
町田	20%	450 点 (50%)	150 点 (17%)	【小】300 点 (33%)	900 点	1.67/2.70
多摩科学技術(科学技術科)	30%	500 点 (50%)	300 点 (30%)	【実】200 点 (20%)	1000 点	1.71
狛江	20%	600 点 (50%)	300 点 (28%)	【作】300 点 (22%)	1200 点	3.67/2.93
神代	20%	450 点 (50%)	150 点 (17%)	【作】300 点 (33%)	900 点	2.50/4.85
調布南	20%	500 点 (50%)	200 点 (20%)	【小】300 点 (30%)	1000 点	3.04/3.73
成瀬	20%	500 点 (50%)	200 点 (20%)	【小】300 点 (30%)	1000 点	1.46/2.88
芦花(普通科単位制)	20%	400 点 (50%)	200 点 (25%)	【作】200 点 (25%)	800 点	3.80
松が谷(普通科)	20%	500 点 (50%)	300 点 (30%)	【作】200 点 (20%)	1000 点	3.29/4.09
富士森	20%	500 点 (50%)	250 点 (25%)	【作】250 点 (25%)	1000 点	2.16/3.45
日野	20%	600 点 (50%)	250 点 (21%)	【作】350 点 (29%)	1200 点	2.82/2.10
小川	20%	500 点 (50%)	250 点 (25%)	【作】250 点 (25%)	1000 点	2.25/3.17
片倉(普通科)	20%	450 点 (50%)	350 点 (39%)	【作】100 点 (11%)	900 点	3.08/3.00
町田総合	30%	500 点 (50%)	300 点 (30%)	【作】200 点 (20%)	1000 点	1.68
山崎	20%	500 点 (50%)	300 点 (30%)	【作】200 点 (20%)	1000 点	1.45/2.39
野津田(普通科)	20%	300 点 (46%)	300 点 (46%)	【作】50 点 (8%)	650 点	0.92/1.73

① 調査書について

調査書とはいわゆる成績表のことであり、9教科の5段階の評点の合計である45点満点を、各学校が満点とする点数に換算する。

② 小論文・作文・実技検査

2013年度より、推薦入試において、小論文、作文、実技検査のどれか1つ以上を実施することになった。例年の参考として2020年度入試においては、小論文が37校、作文が115校、実技検査が18校で実施され、駒場高校の保健体育科のみが作文と実技の2つを実施した。小論文は進学指導重点校などの難関校で実施されることが多く、実技検査の実施校は全て専門学科で、普通科で実施している学校はなかった。

■小論文出題例(2020年度戸山・抜粋)

- 2 次の文章は太郎くんの日記の一部分である。この文章を読み、以下の問いに答えなさい。

□月□日(土)

今日の午前中は、家の手伝いをしてお小遣い2000円をもらうことになっていたが、友達から割引券があるから映画を見に行こうと誘われた。手伝いを弟に譲り、映画に行くことにした。映画は予想以上に面白くて、お小遣いは惜しかったけれど、弟に代わってもらって正解だった。映画館に行くのに定期券が使えなくてバス代が往復で400円かかった。映画のチケット代は1500円のところ1000円で見られた。

○月○日(日)

午後、新宿アリーナでのライブ。帰りの混雑を予想して電車のフリー切符を買った。普通に切符を買えば840円のところ、800円で買った。このライブはもともと10000円を出しても行く価値があると思っていたくらいだが、払い戻しができないファンクラブ限定の特別前売り券を5000円で買うことができた。それなのに、①会場に到着してみると、前売り券を家に忘れてきていた。取りに帰っている時間はない。②あきらめずにチケット売り場に行ってみると、なんと当日券が7000円でまだ販売されていた。

- 問2 太郎くんの○月○日(日)の日記について、次に紹介する「埋没費用」という経済学的な考え方をを用いて、以下の①、②の問いに答えなさい。なお、この問いでは金銭的費用と金銭に換算されたものについて考察することとする。

埋没費用とは「過去に支出された資金や労力のうち、回収することも取り消すこともできない費用」をいう。新たな選択や決定を行う際にはこの埋没費用を無視することが経済学的には合理的とされている。それにもかかわらず費用として意識されるため、その後の意思決定に悪影響を及ぼすことがある。

- ① 日記の文章中の下線部(1)の時点での、埋没費用に該当するものとその金額を、日記の文章中の語句を用いて、全て答えなさい。
- ② 日記の文章中の下線部(2)について、この後、太郎くんは新たに当日券を購入してライブを見た方がよいのか、それともライブを見るのをあきらめて自宅に帰る方がよいのか、どちらを選択することが経済学的に合理的なのか、①での埋没費用の考え方に触れながら、理由も含めて100字以上125字以内で説明しなさい。

③ 面接

■自己PRカード

東京都立入試では、推薦受検をする全員が「自己PRカード」を志望校に提出しなければならない。

「自己PRカード」は、2006 年度入試までは得点化され、総合成績に加えられていたが、2007 年度入試からは得点化が廃止され、選抜資料として総合的に活用されることとなった。「志望理由・中学校生活の中で得たこと・高等学校卒業後の進路」の 3 項目を記入し、面接の際の質問事項の資料として活用される。

■面接内容

都立高校の面接は、「志望動機」や「高校で力を入れたいこと」、「中学校時代に頑張ったこと」等のオーソドックスな質問が聞かれることが多い。事前にしっかりと練りこんでおけば心配ない。

⑤ 文化・スポーツ等特別推薦

都立高校の約半数で、通常の推薦入試の他に「文化スポーツ等特別推薦」というものを実施している。「運動部に所属し全国レベルの大会で活躍した生徒」や、「文化活動・ボランティア活動などで目覚ましい実績を上げた生徒」などを対象に選考をするが、どんな種目でも良いのではなく、各高校が求める種目についての実力がないと合格はできない。また「入学後も同じ分野で活動を続ける意思を持つ」ことが出願条件である。

■特別推薦実施例(2022 年度)

種目	高校名	種目	高校名
硬式野球	狛江(男), 松が谷(男), 日野(男), 片倉(男), 富士森(男), 府中東(男), 千歳丘(男)など	吹奏楽	富士森(男女), 片倉(男女)など
サッカー	狛江(男), 松が谷(男), 富士森(男), 片倉(男), 府中東(男)など	合唱	千歳丘(男女)など
バスケットボール	日野(男女), 富士森(女), 府中東(女)など	バドミントン	町田総合(男女)など
バレーボール	日野(女), 府中東(女)など	自転車競技	八王子桑志(男女)

(2)一般入試(第一次募集)【入学定員の80%程度】

入学定員から推薦入試合格者数を引いた残りの60%～90%を選抜する。学力検査の結果(入試得点)と調査書の評定(内申点)を1000点満点になるように換算した「総合得点」に、面接や実技検査などを行った場合はその結果(得点)も加えた「総合成績」で選考を行う。試験日は例年2月21日頃。志願変更を1度だけ認められる。

① 学力検査

学力検査の実施教科は英語・数学・国語・理科・社会の5教科が基本で、実技検査を実施する総合芸術・駒場(保健体育科)・野津田(体育科)などは英語・数学・国語の3教科の実施となる。配点は各教科100点満点だが、特定の教科に比重をかける傾斜配点を行うところ(国際(国際学科)・多摩科学技術など、全8校)や、面接を実施するところ(野津田(福祉科)等、全8校)もある。また、主に上位高校で英数国の3教科を中心に独自問題を作成している。なお、2016年度より、採点ミス防止のためマークシート方式が採用されている。

■ 独自問題(自校作成問題)実施校(2021年度入試)

日比谷・西・国立・戸山・青山・立川・新宿・八王子東・墨田川・国分寺の計10校は英・数・国で独自問題を実施。国際は英語のみ独自問題。

② 選考資料

入試得点を700点満点に、内申点を300点満点に換算して算出した総合得点(1000点満点)の結果で選考する。面接や実技検査がある場合は、その結果も加えて判断する。

■ 入試得点(学力検査得点)

5教科もしくは3教科で実施した入試得点(各教科100点満点)を、700点満点に換算する。

■ 内申点(調査書得点)

中3(2学期)の9教科45点満点の内申点(評定)を、学力検査実施教科が5教科か3教科かで次のように換算内申を出し、それをさらに300点満点に換算する。

学力検査の実施教科数	換算内申の求め方									
5教科 (英数国理社)	英	数	国	理	社	音	美	保体	技家	計
	5	5	5	5	5	5	5	5	5	45点満点
	↓	↓	↓	↓	↓	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓
	5	5	5	5	5	10	10	10	10	65点満点
3教科 (英数国)	英	数	国	理	社	音	美	保体	技家	計
	5	5	5	5	5	5	5	5	5	45点満点
	↓	↓	↓	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓
	5	5	5	10	10	10	10	10	10	75点満点

■ 総合得点

総合得点＝学力検査得点＋調査書得点（＋面接・実技検査得点）で計算される。

総合得点計算例（学力検査5教科実施の場合）

（例）Aくん

	英	数	国	理	社	音	美	保体	技家	計
入試得点	85	76	82	78	92					413
内申	5	4	4	5	4	3	5	3	3	36

（ⅰ）入試得点を学力検査得点に換算する

$413(\text{入試得点}) \div 500(\text{入試満点}) \times 700(\text{学力検査得点満点}) = 578.2(\text{点})$

学力検査得点＝578点（小数点以下切り捨て）

（ⅱ）内申点から換算内申点を求め、調査書得点に換算する

換算内申＝（英数国理社の合計 22）＋（音美体技の合計 14） $\times 2 = 50(\text{点})$

$50(\text{換算内申}) \div 65(\text{換算内申満点}) \times 300(\text{調査書得点満点}) = 230.8(\text{点})$

調査書得点＝230点（小数点以下切り捨て）

（ⅲ）総合得点を求める

総合得点＝578(学力検査得点)＋230(調査書得点)＝808(点)

③ 英語スピーキングテストについて

中学校における「話すこと」の指導を充実させ、高等学校での「使える英語力」へのベースとするとともに、「話すこと」に関する評価を導入するために、2023 年度入試からESAT-J（東京都中学校スピーキングテスト）が導入される。

■テスト実施要項

- ・2023 年度は 2022 年 11 月 27 日(日)に実施(予備日は 12 月 18 日(日))
- ・2023 年 1 月中旬に結果帳票を受け取り、調査書とともに提出する
- ・中学学習指導要領に準拠した内容で出題
- ・タブレット等の端末に解答音声を録音する方法で実施
- ・受験回数は 1 回
- ・中3生全員が受験(国私立高校への進学希望者も受験)
- ・テストは都教委が監修し、民間団体(ベネッセ)が行う ※中学校等の教員は関与しない
- ・配点は 20 点分(1020 点満点)
- ・結果は A～F の評価で表され、総合得点に 20 点満点で加算される。そのため総合得点は 1020 点満点となる。
A:20 点 B:16 点 C:12 点 D:8 点 E:4 点 F:0 点
- ・2021 年に実施されたプレテストでは以下の結果がでている
A:11.7% B:20.3% C:27.0% D:23.9% E:15.3% F:1.9%

■スピーキングテスト 問題スクリプト(放送台本)

【No. 1】 *What is your favorite animal?*

【No. 2】 *What time do you usually get up?*

【No. 3】 *Do you have any plans for next Sunday?*

→ Yesボタンを押した場合→*What are you going to do next Sunday?*

→ Noボタンを押した場合→*What do you usually do on Sunday?*

【No. 4】

Please read the Japanese. You have 30 seconds.

Please read the Japanese and English. You have 30 seconds.

Now, please read the English. You have 30 seconds.

【No. 5】

Please read the Japanese. You have 1 minute.

Now, please begin. You have 45 seconds.

【No. 6】

Please read the Japanese. You have 1 minute and 30 seconds.

Now, please begin. You have 45 seconds.

英文を声に出して読みなさい。(解答時間 30 秒)

30 秒で、次の【アナウンス原稿】を、声に出して読みなさい。

【アナウンス原稿】

Good morning, everyone. You can't use the school gym today. If you want to play basketball after school, please play at Green Park. The gym will be open again tomorrow. Thank you.

イラストを見ながら話しなさい。(解答時間 45 秒)

では、イラストを見ながら、指示の後に、順の行動を順番に話しなさい。話すときは、次に示す【最初の英文】で始め、それに続けて 3 枚のイラストについて、まとまりのある報告をしなさい。解答時間は 45 秒です。

【最初の英文】 We went to a zoo today.



スピーチをしなさい。(制限時間 45 秒)

日本で一番好きな季節と、それに関連する内容について、指示の後に、スピーチをしなさい。話す文の数は 3 つ以上、制限時間は 45 秒です。

<話すことの例>

- ・その季節が好きな理由
- ・好きな理由の補足情報
- ・その季節にすること など



④ 合格者の決定方法

男女別定員制をとっている都立の普通科では、男女別に総合成績の上位の受検者から合格者を出す。なお、2022 年度入試では募集人員の 90%までは男女別で選抜し、残りの 10%を男女混合で選抜する男女枠緩和による選考を実施した。

また、単位制や専門コースなどでは最初から男女混合で募集を行い、総合成績順で選抜を行う。

(3) 第二次募集

一般入試（第一次募集）で入学手続き者が募集定員に達しない時は、第二次募集を行う。学力検査は英語・数学・国語の 3 教科で実施され、学力検査得点と調査書得点の比率は、6:4 である。第一次募集では男女別に募集を行っていた普通科でも男女混合で選抜を行う。

また、当初から一般入試の募集定員の一部を、この第二次募集の期間に募集する「前後期分割募集」を実施するところもある。

3. 国私立高校入試について

(1) 私立高校の入試制度

私立高校の入試制度は大きく4つに分類することができる。①推薦 ②専願(単願) ③併願 ④オープン入試(一般入試)である。

① 推薦

■ 一般的な推薦制度

一般的な推薦制度とは、内申点を利用して第一志望の私立高校に合格する方法である。12月15日頃に、中学校を通じて希望する私立高校へ入試相談を行う。その高校が定めた基準(内申点や欠席日数など)を満たしていれば出願が認められる。この時点で確約を得たことになるが、他の高校には出願できなくなる。ほとんどの高校が1月23日前後に面接や作文を実施して、人物に問題がないか確認が行われる。

■ 特殊な推薦制度

法政二・法政国際(旧・法政女子)は入試相談のみで合格の確約が出るため、面接や試験を実施しない。この形式を書類選考と呼ぶ。一方、他の難関校は入試相談によって推薦の出願を認めるだけで、その後に適性検査(主要3科か5科の学科試験)や小論文や厳しい面接などで合否を決定する。こうした高校は倍率も高いので、推薦入試で不合格だった場合に備えて他校受験の準備や計画が必要である。

◆独自の推薦制度を導入している高校例◆

高校名	試験内容	確約
法政二・法政国際(旧・法政女子)	なし(書類選考のみ)	有
早大高等学院	ハイレベル面接(30分・面接官3人:生徒1人)	無
青山学院	作文(出願時)・適性検査(3科)・面接	無
日本女子大附	作文・面接	無
中央大・明大中野八王子	適性検査(中大5科、明大3科)・面接	無

■ 他校を受験できる推薦制度はなくなった

一部の私立高校では、推薦の定員枠で後述する併願入試を実施していた。しかし、2013年度に神奈川県や東京都の公立(都立)入試制度が変更されて以降、推薦入試に合格した後は他校を受験できなくなった。現状では、推薦入試は当該高校を第一志望としなければならない。

② 専願

専願は、「単願」と呼ばれることもある。第一志望を前提とした入試制度であり、その意味では推薦制度とほぼ同じ役割を持つ。確約をもらう時期も推薦と同じく12月15日頃の入試相談時である。内申基準は、推薦より専願のほうがやや緩やかになっていることが多い。そのため、推薦の内申基準に届かないときに、専願制度を利用する。

推薦と異なる点は、一般の受験者と同様に学科試験を受けることである。しかし、これは合否を決定するためではない。一般受験の定員枠で合格させ、入学後のクラスを決定するためである。学校によっては、学科試験の結果が優秀だった場合に特進クラスへのスライド合格を認める制度もある。

③ 併願

■ 一般的な併願の仕組み

併願は、俗に「すべり止め」とも呼ばれる。主に公立（都立）高校を第一志望とする生徒を対象にした制度である。各私立高校には、独自に定めた併願の内申基準がある。それを満たしていれば、中学校を通じて入試相談で合格の確約が提示される。一般の受験生と同様に学科試験を受ける必要はあるが、受験さえすれば合格するので、その後の公立（都立）高校受検にも安心して臨むことができる。ただし、公立（都立）高校が不合格になった場合は、併願制度を利用した私立高校に進学しなければならない。

■ 他の私立高校と併願できることもある

公立（都立）だけでなく、他の私立高校に対しても併願を認める私立高校が存在する。公立（都立）と私立高校の両方を一般受験する場合や私立高校が第一希望の時に、併願可能な私立高校を選ぶ必要がある。

◆私立高校と併願可能な高校例◆ 注：内申の詳細は各校のページを参照下さい。

内申の目安	高校名
5 科 23 以上	山手・中央大横浜・青稜・都市大等々力・桐蔭(ア)・日本大(総進)・朋優
5 科 21 前後	桜美林・佼成・駒澤大・多摩大目黒・横浜翠陵(文理)・東海大相模・麻布大附(進)
5 科 18 以上	相模女子大(普)・保善(大選)・目黒学院(アド)

■ 「書類選考」という名称の併願制度もある

一部の私立高校では、内申基準のみで学科試験を課さない「書類選考」という併願制度がある。私立をオープン（一般）受験する場合に、併願校で受験日を拘束されないという利点がある。

◆学科試験を受けずに併願可能な高校例◆ 注：内申の詳細は各校のページを参照下さい。

高校名	詳細
桜美林(クラス分けテスト有)・麻布大附・相模女子	作文を提出。
藤嶺藤沢・鶴見大附・横浜商科大・横浜・武相・藤沢翔陵(特)	エントリーシートなどを提出。
中央大横浜・向上・横浜創学館(特・文選)・英理女子学院(i グロ)	特になし。

■ 確約のない併願制度もある

一部の上位私立高校では、内申基準の他に入試でも一定以上の得点を課す併願制度がある。その得点に満たなければ不合格となるので、事前に得点力を確認しておく必要がある。

◆併願で一定の入試得点を課す高校例◆

高校名	入試点数
朋優	3 科合計 130 点以下は不合格。22 年度は特進の最低点が 190 点であった。
東農大一	5 科の内申点によって入試に 10 点～30 点を加点。
八王子(総合)	併願基準を満たしていれば入試得点に 50 点を加点。

注：桜美林は 2019 年度より入試得点を課さなくなった。

④ オープン入試

オープン入試は「一般入試」と呼ばれることもある。オープン入試の定員枠は専願や併願とは別に設けられ、受験当日の点数のみで合否が決まる。内申点が低くても実力のある生徒にとっては、有利な制度といえる。ただし、難関校では中学の指導要領を越えて出題されることがある。併願制度のない日大三や國學院なども実施しているが、併願とオープンの枠が同じ中央大横浜などは合格者が少ない。さらに、2次募集で実施する高校もある。

◆オープン入試を実施する難関校の例◆

高校名	高校名
東京学芸大附属(国立)	中央大学
お茶の水女子大附属(国立)	中央大学附属
東工大附属科学技術(国立)	桐光学園
慶應義塾	明治学院
慶應義塾女子	法政大学第二
早稲田実業	法政大学国際(旧・法政大学女子)
早稲田大学高等学院	日本女子大附属
青山学院	明大中野八王子

◆私立高校の入試カレンダー◆

12月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
← 成績発表・三者面談 →												← 入試相談 (推薦・専願・併願) →																		

1月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
																	← 出願 (推薦) →				← 入試(推薦) 合格発表翌日 →									

2月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
← 出願 (専願・併願・オープン) →								← 入試(専願・併願・オープン) 合格発表翌日 →																			

注：一般的な高校を例としています。高校によって時期が違っています。

(2) 受験校を選ぶ際のポイント

① 内申基準について

私立高校を推薦・専願・併願などで受験する場合、各校で内申基準を設定している。正式発表はその年度の10月1日となっているが、説明会などで事前に公表することも多い。その表記は多種多様であるが、次のようなものが代表的である。

- ・神奈川県公立高校の入試に使用する内申点をそのまま使用する(135点満点)
- ・3年生の12月に出る内申点を基準にする(3科・5科・9科)
- ・2年生の学年末と3年生の12月に出る内申点を合算する(3科・5科・9科)

内申点に加え、以下のものも評価対象になるが、欠席日数を除き、多少の加点程度の場合がほとんどである。欠席日数に関しては、入院等特別な事情ではない限り、出願資格を失う。

- ・部活動の実績(一般的に県・都大会レベル以上が必要)
- ・検定(英検・漢検・数検などで3級以上。準2級以上が必要な場合も多い)
- ・生徒会役員・委員会などで「長」として活動した実績
- ・課外活動の実績(ボランティア・社会福祉活動など)
- ・中学3年間の欠席日数が〇〇日以内(学年ごとの場合もある)

② 公立(都立)高校のみの受験は避ける

公立(都立)高校のみを受験するのは、なるべく避けるべきである。緊張してしまったり体調が悪かったりして、全力が出せない場合があるからである。

加えて、併願校を受けずに公立(都立)高校のみを受験すると、必ず合格できそうな安全圏の高校を選ぶことになる。本来の学力よりもやや下の高校を受験しなければならないので、高校を選択する上でも不利であると言える。

さらに、万が一不合格になった場合は、二次募集を行っている高校を探すことになる。公立(都立)高校では必ずしも募集するとは限らず、本人の学力に合う私立高校が募集を行う保証もない。よって、公立(都立)高校が第一志望であっても、よほどの事情がない限りは併願校を受ける準備をするべきである。

③ 公立(都立)トップ校受験に私立一般受験も加える

公立(都立)トップ校を受験して不合格だった場合、進学先は私立の併願校となる。しかし、内申による確約がある併願校は、公立(都立)トップ校に比べて大学進学実績が落ちてしまうことが多い。将来の選択肢を有利にするためには、大学付属校や進学実績の良い私立も一般受験しておくことをお勧めする。

特に公立(都立)トップ校は合格者平均点が高得点化していて、公立(都立)高校のトップ・上位校では9割近い正解率が求められる。ミスをせずに解く力や出題傾向が変わっても得点できる応用力が必要である。また、都立で独自入試を実施する高校では、偏差値65前後の私立難関校に匹敵するレベルの問題が出題される。偏差値70前後の国私立難関校レベルの問題を解くことは、公立(都立)入試の問題を早く確実に解くことにも役立つ。

また、私立難関校にオープン入試で合格しておくことにより、万が一の際に併願校のレベルまで進学先を落とすリスクを避けられる。費用がかかる私立に通うことになるのであれば、より将来の選択肢が多い高校を選択すべきであろう。

いずれの場合にせよ、公立(都立)高校が第一志望でも私立を一般受験するメリットは十分にある。ただし、私立難関校の一般入試では、高校レベルの公式や熟語などが出題されることもあるので、受験の際には十分な対応が必要となる。

④ 3年間通いたいと思える高校を選ぶ

例年、夏休みから秋にかけて学校説明会・進路相談会等が集中して開催される。必ず複数の高校を見学した上で、最終的に2~3校に絞りこむ。その中で優先順位をつけ、12月に行われる中学校の三者面談の席上で担任に意志を伝える。「すべり止め」だからと言って、安易に選ぶのではなく、万が一の場合を考え、十分に調べて納得した上で選ぶべきである。

⑤ 共学校だけではなく、男子校・女子校も検討する

共学校は人気が高いが、共学だけに絞ってしまうと選択肢が狭まることが多い。共学校のみを検討するのではなく、男子校や女子校にも候補を広げ、通学可能な地域の高校は可能な限り見学に行ってもらいたい。実際に見学してみると、「想像以上に良かった」と、志望校を変更する場合も多い。例えば、日本女子大附などは大学の附属校であるため、大学受験を意識せずのびのびと高校生活をおくることができるメリットもある。「男子校(女子校)だから…」という理由だけで進学先の候補から外してしまうのはもったいない。

⑥ 入学手続き費用の「延納」「返還」制度を上手に利用する

ここまで述べた通り、公立(都立)高校を第一志望にしている生徒のほとんどは、併願として私立高校を受験する。しかし、合格発表日は私立高校のほうが早いので、先に入学金を支払うと公立(都立)へ合格した時に経済的負担が大きい。

そこで、私立高校の中には、公立(都立)の合格発表日以降に手続き日を設定したり、発表日まで費用の延納を認めたり、一部を返還したりするところがある。この制度を上手に活用することにより、経済的にムダのない高校入試が可能になる。

◆手続きが公立(都立)合格発表日以降の高校例◆

■ 神奈川県

英理女子学院(旧・高木学園女子)・鵜沼・向上・光明学園相模原・相模女子大・橘学苑・鶴見大附・藤嶺学園藤沢・白鵬女子・藤沢翔陵・武相・横浜・横浜学園・横浜商科大・横浜翠陵・横浜清風・横浜創英・横浜創学館など

■ 東京都

共立女子第二・国本女子・京華・佼成学園・駒場学園(普通科)・品川翔英・自由ヶ丘学園・松蔭大附松蔭・正則・玉川学園・帝京大・東京家政学院・東京都市大等々力・東農大一・トキワ松学園・日本工業大駒場・八王子実践・富士見丘・朋優学院・保善・目黒学院など

◆届出をすれば延納できる高校例◆

■ 神奈川県

大西学園・法政大学国際(旧・法政大女子)・法政大学第二・横浜隼人など

■ 東京都

関東国際・工学院大附・佼成学園女子・国士舘・駒沢学園女子・駒澤大・品川エトワール女子
・下北沢成徳・正則学園・青稜・専修大附・多摩大目黒・鶴川・東京・東京実業・日本体育大
荏原・広尾学園・文教大付・堀越・明治学院(一般②)・目黒日本大学・八雲学園・和光など

◆手続き費用の一部だけを納入する高校例◆

■ 神奈川県	高校名
5 万円以内	麻布大附(5 万円)・桐蔭学園(5 万円)など
10 万円以内	東海大相模(6 万円)・桐光学園(10 万円)・日本大(10 万円)など
15 万円以上	鎌倉学園(15 万円)・中央大横浜(29 万円)・日本女子大附(25 万円)・ 日大藤沢(15 万円)・山手学院(20 万円)など

■ 東京都	高校名
5 万円以内	桜美林(3 万円)・東海大高輪台(5 万円)・日大櫻丘(3 万円)・ 日大三(B 志願 5 万円)・日大鶴ヶ丘(特進・総進 3 万円)など
10 万円以内	國學院(7 万円)など
15 万円以上	青山学院(32 万円)・中央大(30 万円)・明大明治(30 万円)・ 早大高等学院(26 万円)など

◆納入した費用を一部返還する高校例◆

注:返金される金額(返金されない金額)で記載

■ 神奈川県

慶應義塾 59.1 万円(34 万円)

■ 東京都

慶應女子 55.3 万円(34 万円)・早稲田実業 12 万円(30 万円)

⑦ 私立高校の学費補助を利用する

2014 年以降に私立高校へ進学した場合、国からは「高等学校等就学支援金」が支給される。さらに、神奈川県では「学費補助金」と「入学金補助」、東京都では「授業料軽減助成金」が支給される。これらの支給額は「県(都)民税・市町村民税の所得割額」の合算額で異なる。なお、申請は進学した私立高校経由で行われる。

ここで注意したいのは神奈川県の学費補助である。この制度は神奈川県の私立高校に通学する場合のみ適用される。東京などの私立高校に進学した場合、支給されるのは国の学費補助だけとなる。これに対して、東京都の学費補助は他県の私立高校にも適用される。なお、これらの補助金は 2020 年度から適用される。

◆神奈川県の場合◆ 年収が700万円未満か多子家庭だと補助が多い

年収目安	非課税	590万円未満	700万円未満	750万円未満	800万円未満	910万円未満
国の補助	396,000円	396,000円	118,800円	118,800円	118,800円	118,800円
県の補助	210,000円	100,000円	100,000円	100,000円	対象外	対象外
(多子家庭)	60,000円	60,000円	337,200円	74,400円 (337,200円)	対象外 (337,200円)	対象外 (74,400円)
合計	666,000円	556,000円	556,000円	293,200円 (556,000円)	118,800円 (456,000円)	118,800円 (193,200円)
(多子家庭)						

注：県の補助は上段が入学金補助、下段が授業料補助。

注：生活保護を受給しているか非課税の家庭には、授業料以外の負担を軽減する県の補助「神奈川県高校生等奨学給付金」(年間52,100円～152,000円)がある。県外の私立高校にも利用できるが、その場合のみ申請者自身が手続きを行う。

注：多子世帯とは、15歳以上23歳未満の扶養している子どもが3人以上いる家庭。

◆東京都の場合◆ 年収910万円未満には実質無償化。子ども3人以上の世帯にも補助

対象世帯区分				【全日制・定 時制】	【都認可通 信制】
				軽減額 (年額)	軽減額 (年額)
A	区市町村民税課税標準額×6%－区市町村民税調整控除相当額 が、154,500円未満の世帯			65,000円	対象外
B	区市町村民税課税標準額×6%－区市町村民税調整控除相当額 が、304,200円未満の世帯			342,200円	135,200円
C	上記Bの基準を超過する場合で、世帯人数に対応した基準額以下の世帯※ ※ なお、以下の世帯は、Bの基準が上限額になります。 Ⅰ.申請者1人のみ所得がある世帯のうち世帯人数が2人、3人、4人の世帯 Ⅱ.申請者と配偶者2人に所得がある世帯のうち、世帯人数が2人の世帯				
	区市町村民税課税標準額×6%－区市町村民税調整控除相当額 が一定基準以下の世帯				
	世帯人数	Ⅰ.申請者1人のみ 所得がある世帯	Ⅱ.申請者と配偶者2人に所得がある世帯		
	3人	－	320,340円以下		
	4人	－	378,120円以下		
	5人	313,800円以下	438,060円以下		
	6人	327,600円以下	451,860円以下		
	7人	358,680円以下	482,940円以下		
	8人以上	358,680円に世帯 人数が1人増すご とに	482,940円に世帯人数が1人増すごとに		
31,080円を加えた 額以下		31,080円を加えた額以下			
D	上記Cの基準を超過する場合で、扶養する23歳未満の子が3人以上いる世帯(多子世帯)			59,400円	59,400円

注：上記の東京都の補助金とは別に国の補助金が神奈川県と同様に支給される。

注：東京都も神奈川県と同様の「奨学給付金」制度があり、支給額も変わらない。